

# ドイツ語

【単位数: 1単位, 授業 13コマ(定期試験含まず)】

## 1 科目責任者

平田亜紀 准教授(外国語)

科目担当者

中川拓哉(非常勤講師)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(I-2-c, I-5-c, II-1-c, II-2-c)

- ① コアコンピテンスの「他者の多様な価値観を尊重できる」、「患者と家族の心理・社会的背景を理解し、全人的に対応できる」、「患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会と良好な関係を構築できる」ために、また「心理・生活・文化的背景を適切に把握するための、支持的・共感的なコミュニケーションをとることができ」るようになるために、外国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに、異文化に対する理解を深める。
- ② 個や集団に及ぼす文化・慣習による影響(コミュニケーションの在り方等)が理解できるようになる。

### (2) 学修目標

- ① 患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し、柔軟に対応できる。
- ② 良好的な人間関係を構築するために必要なスキルとして、開講される外国語を母語とする患者へ簡単な挨拶や声かけをすることができる。
- ③ 言語・文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。
- ④ 「読む」「書く」「聞く」「話す」というドイツ語の4技能を培い、ドイツ語で簡単なコミュニケーションをとることができる。
- ⑤ ドイツの文化についての理解を深めることで、日本文化にはない多様な価値観を尊重できる。
- ⑥ 基礎的な文法の習得に加え、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションといった実践的な練習を通じて、自身で試行錯誤しながら行うコミュニケーション力を身につける。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

成績対象	割合	方法・コメント
平常点	○ 30%	AIDLE-Kを通じた課題・小テスト・音読練習など。
定期試験	○ 70%	記述式の筆記試験(一部多肢選択問題を含む)
態度	○ 一	遅刻・欠席を含め受講態度不良の場合は、10%を限度に減点する。

出席: 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は、再試験を実施する。

再試験は定期試験に準ずる試験を実施する。60%以上を合格とする。

#### (4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

毎回の小テストとレポートに対する解説は授業中に随時行う。

### 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
つながるドイツ語みつとりーべ	中村 修 中川拓哉 大澤タカコ	朝日出版社	ドイツ語を学習する初学者に適した内容とレベルである。

### 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
ドイツ語学習用インターネットサイト Deutsche Welle <a href="https://learngerman.dw.com/en/beginners/s-62078399">https://learngerman.dw.com/en/beginners/s-62078399</a>			ドイツが提供している。レベルに応じた様々なコンテンツがある。ページの言語は英語だが平易に書かれている。

### 6 準備学習（予習・復習）

- 予習は求めないが、復習は重要である。授業時間内にやり残した課題や十分に理解できなかったところは、復習しておくこと。それでも不明なことがある場合は、早めに質問をするように。
- 語彙や表現については、教科書や参考書籍によって復習し、実践の機会を継続することが重要である（1コマあたり約0.5時間）。
- 単元のまとめに実施する提出課題などにも十分に準備して臨むこと（1コマあたり約40分）。

### 7 授業計画

#### (1) 講義の方法

基本的な文字の読み方と、発音練習を授業内で繰り返し行う。また文法等の演習課題を行うことと、理解のポイントについての解説が授業の中心となる。きめ細かい語学指導を行う。授業には、教科書と前週までのハンドアウトを持参すること。なおAB組の分け方は他の科目的分け方とは一致しないので注意すること。

#### (2) 講義の内容

ドイツ語を初めて学修するための初中級向けの授業内容である。課題と解説を通じて発音、語彙、文法、重要な表現の基本を身につける。授業中は、間違うことを恐れずに、積極的に声に出して発音練習をすることが重要である。発音、語彙、文法の理解については、学生の理解度を確認しながら調整して解説を進めていく。また、疑問点や確認したいがあれば、その都度、積極的に質問することを推奨する。